

支え合い、学び合う学級経営  
—コミュニケーション力を育むジグソー学習—

教育実践高度化専攻

小学校教員養成特別コース

P08079E 松岡 倫代

## 1 研究報告書の構成

はじめに 問題の所在と研究の目的

第1章 学校教育で育成するコミュニケーション

第1節 コミュニケーション力とは

第2節 思考力・判断力・表現力とは

第3節 言語力について

第2章 学級経営と授業

第1節 学級経営とは

第2節 学級経営の中の授業

第3節 ジグソー学習

第3章 ジグソー学習を用いた社会科授業の実践事例

第1節 研究の概要

第2節 授業実践の内容

終わりに 今後の課題とまとめ

## 2 研究の概要

### (1) 問題の所在と研究の目的

近年、地域社会の希薄化や少子高齢化といった社会問題が深刻化し、児童が対面しながらコミュニケーションをとる機会が減少している。また、学校教育が抱えている問題の1つである、いじめや不登校等もコミュニケーション力の欠如が背景の1つであると言われている。これらを踏まえて、学習指導要領の改訂が行われ、平成23年度から全面実施がなされることとなった。

新学習指導要領では、確かな学力を育成するために基礎的・基本的な知識や技能を習得させると同時に、思考力・判断力・表現力等の育成も重要視されている。また、言語に関わる能力を育成するために国語に限らず、どの教科においても言語活動を積極的に取り入れることが明記された。

そこで、本研究では学校教育で児童の言語コミュニケーション力を育むことを目的とし、そのための手段としてジグソー学習を用いることとした。具体的に以下の3点の仮説を立て、検証する。

- ①ジグソー学習を授業の中に取り入れることにより、児童が自分の考えを持ったり、仲間との交流によってさらに深めたりすることができるのではないかと。
- ②ジグソー学習では、一人ひとりに課題解決の責任と役割が存在するため、学習課題に対して、分からない点は積極的に仲間に質問したり、理解できるまで考えたりしながら、児童相互の学び合いが促進されるのではないかと。
- ③児童が自己の考えを深めることでコミュニケーション力の向上が期待できるのではないかと。

### (2) 研究の対象と方法

#### 「研究の対象」

三木市立別所小学校 5年1組 児童数24名

#### 「研究の方法」

- ① 社会科「工業生産と貿易」の授業設計。
- ② 授業中の児童の発言用とワークシート用の分析基準の作成。
- ③ 事前アンケートとプレテストの実施。
- ④ ジグソー学習を用いた社会科授業を行う。
- ⑤ 事後アンケートとポストテストの実施。
- ⑥ 児童のワークシートやジグソー学習中の児童の会話及び、実施したアンケートやテストの分析。
- ⑦ 分析結果を用いて、ジグソー学習の効果や児童のコミュニケーション力の変化について考察する。

### 3 研究の成果

今回ジグソー学習を初めて行った児童であったが、思考力・判断力・表現力を高めると同時にコミュニケーション力が活性化された。

まず、ジグソー学習中の児童の発話を分析するため、高垣らが作成した発話の質的分析のカテゴリーを参考にして7段階の発話カテゴリーを作成した。また、このカテゴリーに社会科における言語力の段階も当てはめた。社会科における言語力は、記述的知識、分析的知識、説明的知識、規範的知識の4段階であり、発話カテゴリーの段階1と2が記述的知識、段階4と5が分析的知識、段階6が説明的知識、段階7が規範的知識に相当する。これらを用いて調べ学習1時間目と3時間目の発話を比較すると、どのグループも発話段階が上がったり、段階の幅が広がったりしていた。他方、児童を抽出して発話を分析すると、自分の考えを持つことができたり、考えを深めていた児童は発話段階の幅が広がっていることが分かった。ジグソー学習を授業に取り入れることで、児童のコミュニケーション力が活性化され、社会科における言語力も高まった。

そして、調べ学習中に用いたワークシートからも、児童の社会科における言語力が高まっていることが分かった。資料から読み取った内容を記述する記述的知識にとどまらず、自分の解釈を加えたり、資料を基に自分の考えを書いたりし、分析的知識や説明的知識を獲得している児童が調べ学習を進めていくにつれて増えたことも成果である。

さらに、実践授業の前後でアンケートやプレテスト・ポストテストにおいても児童の変容が見られた。アンケートでは、「自分の考えをもつ」「分かるまで考える」「分からないときは、進んで質問する」といった項目に有意差が見られたことにより、児童相互の学び合いや教え合いが活発に行われ、思考力等が高まると同時にコミュニケーション力も活性化されたと考えられる。事後アンケートではジグソー学習を終えた児童に率直な感想も記述してもらった。資料の読み取りや解釈を行うことに関して難しさを感じた児童がいた一

方で、自分の考えを持つことができたり、友だちの考えを聞くようになったこと、以前の自分より考えを言えるようになったりしたと書いていた。

プレテストとポストテストでは、知識・理解を中心として単元の学習内容を問うものを作成した。ポストテストではほとんどの児童が単元の内容を理解しており、児童のコミュニケーション力の活性化と共に基本的・基礎的知識も身につけていることが分かった。

### 4 今後の課題

今回の研究において、成果が得られた一方で4つの課題も見られた。

- ① 単元の授業時数を短縮すること。
- ② 児童に見合った資料の量と質、ワークシートを用いること。
- ③ 教師の言葉かけや働きかけについての考察。
- ④ 個に応じた指導の仕方についての考察。

授業を行うにあたって、まずは児童理解を充分に行うことが必要である。そして児童に適した資料やワークシートを準備し、授業中は、個やグループに対する教師の言葉かけや働きかけ、指導が求められる。特に、児童の学び合いを活発にし、コミュニケーション力を向上させるための具体的な働きかけについて考える。

今後、このような課題を解決し、ジグソー学習の有効性や児童のコミュニケーション力を育むための方法について理解を深めていきたい。

### 5 参考文献

- ・大橋理枝，根橋玲子『コミュニケーション論序説』放送大学教育振興会，2007。
- ・西川純『学び合う教室』東洋出版，2000。
- ・岩田一彦，米田豊他『「言語力」をつける社会科授業モデル 小学校編』明治図書，2009。
- ・筒井昌博『ジグソー学習入門—驚異の効果を授業に入れる24例』明治図書，1999。

修学指導教員 初田 隆